



ウエストパック銀行
2006年度 年次報告書要約



今日

ウエストパック銀行は今年度も過去最高益をさらに更新し、株主価値を高めたことを強調したいと思えます。

昨年、私はステークホルダーのニーズに応じ、当行職員の熱意を十分に生かす新しい発想の必要性についてお話ししました。今年度はこの新しい発想を拡大し、当行の長期的繁栄を確実にする真の挑戦に取り組むことが必要になりました。

創立189年を迎えるオーストラリア最古の企業の会長として、この点について十分に考えなければなりません。ウエストパックはオーストラリアにおいて卓越した地位にある以上、今日の企業で支配的となっている短期的課題に焦点を当てるべきではないと考えます。

私が、持続性を保つために当行が実行していることについて簡単に述べ、デイビッド・モーガンが、すべての世代の人々が以前にもましてより良い生活を送れるような一流の商品とサービスを提供することによって、当行が明日の課題にいかに取り組んでいるかについてご説明します。

過去最高益

最初に業績についてですが、競争的な環境が激化したにもかかわらず、ウエストパックが真の進歩を達成したことを最も明らかに示しています。

税引後利益は前年度比14%増加し、過去最高の3,071百万豪ドルとなり、1株当たり利益は12%増の167豪セントと過去最高になりました。

現金収入も10%増の3,079百万豪ドルに達しました。

これはグループレベルで好調な業績で、収益を6%拡大しつつ、経費の伸びをわずか3%に抑えることによって、強固な正味資産を維持した結果です。

この結果、当行は効率性をさらに高め、収益に対するコストの比率は、昨年の47.7%から46.6%に下がりました。

大半の営業部門で現金収入が増加しましたが、全部門が潜在能力を十分発揮しているとは言えません。オーストラリアのビジネス・コンシューマー・バンキングは11%、BTは報告ベースで10%（既存店ベース修正後では21%）、インスティテュショナルバンクは報告ベースで4%（ニュージーランドでの既存取引で減益となったストラクチャード・ファイナンス取引を除くと20%）、パシフィック・バンキングは17%の増加となりました。ニュージーランド・バンキングは非常に競争の激しい市場にあって、豪ドルベースで4%増、ニュージーランドドルベースでは横ばいとなりました。

株主の皆様への利益還元

このような好業績と将来への確信から、取締役会は普通株式1株当たり60豪セント（完全非課税）の期末配当を決定しました。中間配当の56豪セント（完全非課税）を加えると、今年度の年間配当は116豪セントとなり、前年度を16%上回りました。この結果、配当性向は前年の67%から69%に上昇しました。

利益も引き続き堅固で、株主資本利益率は前年の21.7%から23.0%に上昇しました。

時価総額のみならず2006年の自己資本は23億豪ドル（6%）増えました。株価動向と配当を考慮すると、当行の株主利益率は過去5年間に年平均16%増加しています。

健全な体制

このような業績は、好調の続くオーストラリア経済一低いインフレ率、公定金利の緩やかな上昇、低い失業率、企業の低調なギアリングの恩恵を受けているのは間違いありません。ニュージーランドでは、経営環境がほぼ調整された一方で、経済は減速しています。

このような環境は資産の質にもプラスになっており、資本および一括査定した引当金に対する不良資産の比率は、前年の1.9%から1.5%に低下しました。

重要なのは、ウエストパックの資本基盤が非常に強固になっている点です。9月30日現在、ティア1自己資本率は目標水準の6.0～6.75%を上回る6.9%となっています。また調整済普通株式比率は4.6%で、目標とする4.0～4.75%の範囲内です。

持続的繁栄

企業として持続的繁栄を確実にするという論点に話を戻しましょう。

銀行としての長期的将来は、当行が営業している社会の健全度と本質的に関連しています。当行の将来の繁栄は、当行が営業するコミュニティと環境の繁栄から切り離すことはできません。

しかしながらコミュニティとビジネス環境全体は、天候不順、国境を越えた組織的犯罪やテロ、拡大する社会的分断や社会機構の弱体化から生じる計り知れないチャレンジに直面しています。世界がいかに手際よくこれらのチャレンジに対処するかが、私達の将来を左右します。

ウエストパックには、ビジネス界においてこれらのチャレンジに対処し解決する多くの鍵はもとより、ノウハウ、イノベーション、必要な金融的手段があります。当行が多くのものを得ることになるのか、それとも失うことになるのかは、皆様がこの課題をどのようにご覧になるかにかかっています。それができるのは政府だけです。当行は実業界において、政府が適切な政治的枠組みを得る環境を創り出す必要があります。

私達、ビジネス界にとって将来はただ一つであり、今日が未来なのです。当行にとって、顧客が生活するコミュニティが繁栄していなければ、顧客も繁栄できないことを当行は知っています。だからこそ当行は、周囲のコミュニティの持続的繁栄に最も影響を及ぼす事柄に重点を置いているのです。

当行がコミュニティと共有する持続性の優勢順位は、ステークホルダー・インパクト・レポートに毎年記載されています。ウエストパックがリーダーシップにおいて世界的なリーダーとして認識されてきたことを謹んで報告いたします。

また当行はダウジョーンズ「持続力指数」で、5年連続で世界第一位に選ばれました。このような栄誉から、当行は中核業務において持続的発展と責任あるビジネス慣行を正しい方向で遂行していると深く確信しています。

職員と変更点

取締役会に変更はありませんでしたが、1997年に取締役会に加わり9年にわたって貴重な貢献をしてくれましたヘレン・リンチ（Helen Lynch AM）が、今年度の株主総会後に定年退職いたします。この間、ヘレンは執行委員会を除くすべてに貢献し、最近では「取締役会企業責任・持続力委員会」議長を務めました。

ヘレンとウエストパックとの関わりは昔にさかのぼります。ヘレンは1959年に当行に入行し、1978年にオーストラリア初の女性支店長に就任しました。そして管理職の中で輝かしいキャリアを築き、1990年には「プレティン/カンタス・ビジネス・ウーマン・オブ・ザ・イヤー」に選ばれました。1994年、ヘレンは銀行・金融界への貢献に対してメンバー・オブ・ザ・オーダー・オブ・オーストラリア勲章を受賞し、36年にわたる献身的な勤務を終えて同年退職しました。

経営陣では、フィリップ・クロニカン（Philip Chronican）とフィル・コフィー（Phil Coffey）が、インスティテュショナルバンクのグループエグゼクティブと最高財務責任者の職を交換したこと及びチーフ・リスクオフィサーのロバート・ホイットフィールド（Robert Whitfield）が昨年12月1日、エグゼクティブチームに参加したこと以外、変化はありません。

ニュージーランド法人設立

昨年お知らせしましたように、ニュージーランド支店は145年にわたり営業してきましたが、ニュージーランドのリテール・ビジネスバンキング部門は2006年11月1日、ウエストパック・ニュージーランド・リミテッドになり、現地法人になりました。

ニュージーランド・バンキング部門の現地法人化によって、組織的に重要な銀行はすべてニュージーランド企業として法人化しなければならないというニュージーランド準備銀行の政策を、当行は十分遵守できるようになりました。大事なことは、当行がニュージーランドで提供しているサービスに変わりがないように、現地法人がニュージーランドの顧客にとって実質的に変わらない存在である点です。

将来を見すえて

2007年の経済・市場動向は、オーストラリア経済の緩やかな成長と歴史的な低水準にある失業率に下支えされるでしょう。経済活動が拡大する一方、ビジネス向け資金の伸びが急拡大した2006年から持続的な水準に戻るため、貸付金の伸びは緩やかになると予想されます。

また最近の退職年金税制改革に後押しされ、資産運用状況も引き続き非常に明るいと予測しています。

ニュージーランドでは、高金利とニュージーランドドル高が景気に水を差し、経済成長は低調にとどまるでしょう。景気減速から、2007年の貸付金の伸びは鈍化すると予想されます。


「取締役会は、ウエストパックが来年も株主の皆様に必要な収益をお届けできる状況にあるものと確信しています。」

確信に満ちた将来

全体として、当行の現在の経営・金融面の業績は堅固です。

ウエストパックは一つの商品群や顧客層に過度に偏らず、非常に多角的なサービス提供者としてとても良い位置にあります。当行のフランチャイズと改善した経営推進力のお陰で、全ての中核市場において強固な中期的収益拡大を今後も達成できると強く確信しています。

この確信は、当行職員の顧客に対する献身と支持に基づいています。彼らのたゆまぬ献身にあらためて感謝いたします。取締役会は、ウエストパックが来年も株主の皆様に必要な収益をお届けできる状況にあるものと確信しています。


会長
レオン・デイビス
 Leon A. Davis
 Chairman

損益計算書 9月30日終了事業年度

ウエストバック銀行

	注記	連結		当行(親会社)	
		2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル	2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル
受取利息	3	18,091	15,544	17,763	15,595
支払利息	3	(12,449)	(10,285)	(12,547)	(10,966)
純利息収益		5,642	5,259	5,216	4,629
利息以外の収益	4	3,575	3,454	3,342	2,524
業務収益		9,217	8,713	8,558	7,153
業務費用	5	(4,295)	(4,159)	(3,905)	(3,858)
貸倒損失	13	(375)	(382)	(375)	(431)
税引前当期純利益		4,547	4,172	4,278	2,864
法人税等	6	(1,422)	(1,223)	(919)	(645)
当期純利益		3,125	2,949	3,359	2,219
少数株主に帰属する当期純利益		(54)	(251)	—	—
ウエストバック銀行株主に帰属する当期純利益		3,071	2,698	3,359	2,219
1株当たり利益(豪セント)					
基本的	8	167.2	148.9		
希薄化後	8	165.7	147.2		

上記の損益計算書は、添付の注記と併せて読まなければならない。

2005年10月1日付のA-IFRSの適用により、当グループは会計方針を変更することになった。注記1の「国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準の初度適用」で説明がなされているとおり、当事業年度の開示項目の一部には、過年度の報告期間とは継続して表示されていないものがある。なお、A-IFRSへの移行による調整の説明については、注記48参照のこと。

米国GAAPが適用されている場合、ウエストバック銀行株主に帰属する当期純利益、株主持分合計、資産合計および負債合計に対する重要な調整が要求されるが、その要約は注記49で開示されている。

日本語訳注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウエストバック銀行の2006年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書はwww.westpac.com.au/investorcentreで見ることができる。

貸借対照表 9月30日現在

ウエストバック銀行

	注記	連結		当行(親会社)	
		2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル	2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル
資産					
現金および中央銀行預け金	46	2,478	2,853	1,807	2,391
他の金融機関に対する債権	9	12,865	14,355	6,029	8,285
金融派生商品	33	10,311	9,944	10,010	9,340
商品有価証券	10	13,560	12,036	13,603	12,236
公正価値で測定するその他の金融資産	10	3,282		584	
売却可能有価証券	11	969		156	
投資有価証券	11		2,428		656
貸付金	12	234,484	198,286	233,320	192,869
支払承諾見返			4,864		5,143
生命保険に関する資産		14,281	13,595	—	—
海外における中央銀行への法定準備預金		465	347	441	325
子会社債権		—	—	9,836	17,590
子会社に対する投資		—	—	4,605	4,528
営業権およびその他の無形固定資産	15	2,952	2,957	1,701	1,661
有形固定資産	16	466	379	352	259
繰延税金資産	17	653	820	683	939
その他の資産	18	2,812	3,399	2,287	2,652
資産合計		299,578	266,263	285,414	258,874
負債					
他の金融機関に対する債務	19	12,051	10,654	6,301	7,016
預金(公正価値)	20	33,286		33,286	
預金(償却原価)	20	134,455	149,252	133,495	149,052
金融派生商品	33	9,342	10,514	9,491	10,406
公正価値で測定するトレーディング負債およびその他の金融負債	21	7,497	3,154	2,829	3,046
発行済債券	25	61,476	48,754	53,035	22,559
支払承諾			4,864		5,143
未払法人税等		301	306	296	313
繰延税金負債	22	—	20	—	136
生命保険債務		13,476	11,717	—	—
子会社債務		—	—	21,966	38,631
引当金	23	868	651	758	558
その他の負債	24	4,771	5,270	3,636	3,814
借入資本を除く負債合計		277,523	245,156	265,093	240,674
借入資本					
劣後債	25	4,107	3,702	5,436	3,702
無期劣後債	25	521	512	521	512
信託優先証券	25	1,329		—	
借入資本合計		5,957	4,214	5,957	4,214
負債合計		283,480	249,370	271,050	244,888
純資産額		16,098	16,893	14,364	13,986
株主持分					
株主資本:					
普通株式	26	5,519	5,296	5,519	5,296
自己株式	26	(51)	(61)	(8)	(5)
積立金	50	186	46	130	(3)
利益剰余金	50	8,532	8,280	6,835	6,214
転換社債	26	—	—	1,888	2,484
ウエストバック銀行株主に帰属する株主持分合計		14,186	13,561	14,364	13,986
少数株主持分	26	1,912	3,332	—	—
株主持分および少数株主持分合計		16,098	16,893	14,364	13,986
偶発債務および契約債務	40				

上記の貸借対照表は、添付の注記と併せて読まなければならない。

2005年10月1日付のA-IFRSの適用により、当グループは会計方針を変更することになった。注記1の「国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準の初度適用」で説明がなされているとおり、当事業年度の開示項目の一部には、過年度の報告期間とは継続して表示されていないものがある。なお、A-IFRSへの移行による調整の説明については、注記48参照のこと。

米国GAAPが適用されている場合、ウエストバック銀行株主に帰属する当期純利益、株主持分合計、資産合計および負債合計に対する重要な調整が要求されるが、その要約は注記49で開示されている。

日本語訳注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウエストバック銀行の2006年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書はwww.westpac.com.au/investorcentreで見ることができる。

認識利得・損失計算書 9月30日終了事業年度

	注記	連結		当行(親会社)	
		2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル	2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル
売却可能有価証券に係る利益/(損失):					
株主持分で認識	50	57		41	
損益計算書に振替	50	(35)		(18)	
キャッシュ・フロー・ヘッジ商品に係る利益/(損失)					
株主持分で認識	50	(42)		(42)	
損益計算書に振替	50	(36)		(36)	
在外事業体の換算から生じる為替差額	50	26	(96)	22	(145)
株主持分に直接含まれるまたは株主持分から直接振替えられた項目に係る法人税等:					
売却可能有価証券積立金	50	(7)		(7)	
キャッシュ・フロー・ヘッジ積立金	50	25		25	
外貨換算積立金	50	13	—	13	—
株主持分に直接認識される当期純利益		1	(96)	(2)	(145)
株主に帰属する当期純利益		3,125	2,949	3,359	2,219
当期認識純利得合計		3,126	2,853	3,357	2,074
以下に帰属:					
親会社の株主		3,072	2,602	3,357	2,074
少数株主持分		54	251	—	—
当期認識純利得合計		3,126	2,853	3,357	2,074
2005年10月1日付け適用のA-IFRS採用に伴う影響額					
以下に帰属:					
ウエストバック銀行株主			26		170
少数株主持分			(2,173)		(1,347)

上記の認識利得・損失計算書は、添付の注記と併せて読まなければならない。

2005年10月1日付のA-IFRSの適用により、当グループは会計方針を変更することになった。注記1の「国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準の初度適用」で説明がなされているとおり、当事業年度の開示項目の一部には、過年度の報告期間とは継続して表示されていないものがある。なお、A-IFRSへの移行による調整の説明については、注記48参照のこと。

米国GAAPが適用されている場合、ウエストバック銀行株主に帰属する当期純利益、株主持分合計、資産合計および負債合計に対する重要な調整が要求されるが、その要約は注記49で開示されている。

日本語訳注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウエストバック銀行の2006年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書はwww.westpac.com.au/investorcentreで見ることができる。

キャッシュ・フロー計算書 9月30日終了事業年度

ウエストパック銀行

	連結		当行（親会社）	
	2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル	2006年 百万豪ドル	2005年 百万豪ドル
営業活動によるキャッシュ・フロー				
利息受取額	17,944	15,483	17,896	15,494
利息支払額	(12,412)	(10,041)	(12,408)	(10,896)
配当金受取額（生命保険を除く）	9	28	1,056	329
利息以外の受取額	2,587	3,100	1,992	2,005
業務費用支払額	(3,364)	(3,949)	(2,492)	(3,640)
トレーディングおよび公正価値資産の純（増）減	(3,268)	119	(1,624)	(876)
トレーディングおよび公正価値負債の純増（減）	943	(674)	(222)	(2,171)
金融派生商品の純増	(2,488)	(1,829)	(2,844)	(697)
法人税等支払額（生命保険を除く）	(1,328)	(751)	(962)	(312)
生命保険：				
保険契約者および顧客からの入金	2,754	2,560	—	—
利息その他類似の項目	55	93	—	—
配当金受取額	980	706	—	—
保険契約者およびサプライヤーへの支払	(3,371)	(2,461)	—	—
法人税等支払額	(69)	(94)	—	—
営業活動（に使用した）／から得た現金・預金（純額）	(1,028)	2,290	392	(764)
投資活動によるキャッシュ・フロー				
売却可能有価証券による収入（2005年度：投資有価証券）	281	130	169	130
売却可能有価証券の満期償還／売却による収入（2005年度：投資有価証券）	579	1,564	88	1,201
売却可能有価証券の購入（2005年度：投資有価証券）	(1,198)	(598)	(209)	(292)
純（増）減：				
他の金融機関に対する債権	1,488	(995)	2,242	(836)
貸付金	(29,422)	(16,108)	(32,174)	(16,420)
生命保険に関する資産	107	(62)	—	—
海外における中央銀行への法定準備預金	(117)	143	(123)	211
その他の資産	(315)	(1,664)	(959)	1,614
子会社債権	—	—	4,707	6,748
子会社に対する投資	—	—	(77)	577
無形固定資産の購入	(220)	(294)	(249)	(213)
有形固定資産の購入	(225)	(128)	(198)	(111)
有形固定資産の売却による収入	23	27	19	19
その他の投資の売却による収入	—	41	—	40
子会社および事業の売却（保有現金控除後）	120	545	120	—
投資活動に使用した現金・預金（純額）	(28,899)	(17,399)	(26,644)	(7,332)
財務活動によるキャッシュ・フロー				
借入資本の発行	704	1,401	708	1,401
借入資本の償還	(420)	(1,396)	(420)	(1,396)
株式の発行による収入	33	191	33	191
2006年度 TPS の発行による収入（発行費 12 百万豪ドル控除後）	751	—	751	—
無期キャピタル・ノートの償還	—	—	—	(511)
普通株式およびニュージーランド・クラス株式の買戻し	(1,003)	(1)	(1,003)	—
純増（減）：				
他の金融機関に対する債務	1,315	3,894	(710)	1,948
預金および公的借入金	17,547	4,294	18,209	25
発行済債券	12,532	8,499	25,672	1,553
その他の負債	(249)	(25)	980	(579)
子会社債務	—	—	(16,872)	6,949
自己株式の買戻し	(17)	(18)	(3)	—
自己株式の売却	27	7	—	—
配当金の支払	(1,628)	(1,241)	(1,697)	(1,413)
少数株主に対する配当金の支払	(54)	(161)	—	—
財務活動から得た現金・預金（純額）	29,538	15,444	25,648	8,168
現金・預金および現金等価物の純増額	(389)	335	(600)	72
現金・預金および現金等価物の為替相場変動による影響額	14	(7)	16	3
現金・預金および現金等価物の期首残高	2,853	2,525	2,391	2,316
現金・預金および現金等価物の期末残高	2,478	2,853	1,807	2,391

上記のキャッシュ・フロー計算書は、添付の注記と併せて読まなければならない。

2005年10月1日付の A-IFRS の適用により、当グループは会計方針を変更することになった。注記1の「国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準の初度適用」で説明がなされているとおり、当事業年度の開示項目の一部には、過年度の報告期間とは継続して表示されていないものがある。なお、A-IFRS への移行による調整の説明については、注記48 参照のこと。

日本語訳脚注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウエストパック銀行の2006年年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書は www.westpac.com.au/investorcentre で見ることができる。

監査報告書

ウエストパック銀行の株主に対する独立監査報告書

監査意見

私どもの意見によれば、ウエストパック銀行の財務報告は、

- ・ オーストラリアの2001年会社法に規定されているとおり、ウエストパック銀行およびウエストパック銀行グループ（以下に定義）の2006年9月30日現在の財政状態および同日に終了した事業年度の業績について、真実かつ公正な概観を与えており、
- ・ オーストラリアの2001年会社法、会計基準および財務報告に関するその他の法規、ならびに2001年会社規制法（the Corporations Regulations 2001）に準拠して表示されている。

この監査意見は、私どもの監査報告書の以下の部分とともに読まれなくてはならない。

範囲

財務報告および取締役の責任

財務報告は、ウエストパック銀行（以下「ウエストパック」という。）およびウエストパック銀行グループ（以下「グループ」という。）の2006年9月30日に終了した事業年度の貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、認識利得・損失計算書および、財務書類注記、ならびに取締役の宣言で構成される。グループは、ウエストパックおよび当事業年度におけるウエストパックの子会社によって構成される。

ウエストパックの取締役は、2001年会社法に準拠した財務報告の作成および真実かつ公正な表示についての責任を負っている。これには、適切な会計記録、ならびに不正および誤謬を防止し、発見することを目的とした内部統制の維持、また当財務報告に固有の会計方針および会計上の見積りについての責任が含まれる。

監査アプローチ

私どもは、ウエストパックの株主に対して意見を表明するために、独立した監査を実施した。私どもの監査は、財務報告に重要な虚偽表示がないことについて合理的な確証を得るために、オーストラリアの監査基準に準拠して実施された。監査の性質は、専門家の判断の利用、試査、内部統制に固有の制限、ならびに絶対的ではないが相当程度の証拠の入手可能性といった要素によって影響される。そのため、監査によってすべての重要な虚偽表示が発見されると保証することはできない。監査のより詳細な説明については、当事務所のウェブサイト <http://www.pwc.com/au/financialstatementaudit> を参照のこと。

オーストラリアの2001年会社法、会計基準および財務報告に関するその他の法規に準拠して、財務報告がすべての重要な点に関して公正な概観を与え、ウエストパックおよびグループの財政状態ならびに経営成績、株主持分の変動およびキャッシュ・フローに示される業績に関する私どもの理解に一致しているかどうかを評価するために、私どもは手続を実施している。

私どもは以下の手続きに基づいて、私どもの監査意見を形成している。

- ・ 財務報告の金額および開示を裏付ける証拠を提供する情報についての試査による検証。
- ・ 適用されている会計方針および開示の適正性ならびに取締役が行った重要な会計上の見積りの合理性に対する評価。

私どもの手続きには、当財務報告との重要な矛盾点がないかどうかを判断するために年次報告書中のその他の情報を読むことが含まれる。

私どもの手続きの性質および範囲を決定する上で、私どもは財務報告に対する経営陣による内部統制の有効性を検討した。

私どもの監査には取締役もしくは経営陣が行った事業判断についての慎重性の分析は含まれない。

独立性

私どもの監査の実施にあたり、私どもはオーストラリアの職業倫理基準および2001年会社法のうち該当する独立性の要件に従っている。

ブライズウォーターハウスクーパース

D.H. アームストロング
パートナー
シドニー、オーストラリア
2006年11月2日

日本語訳脚注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウエストパック銀行の2006年年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書は www.westpac.com.au/investorcentre で見ることができる。

監査報告書

ウェストパック銀行の取締役会および株主に対する独立登録会計事務所の監査報告書

私どもは、公開企業会計監視委員会（米国）の基準に準拠して、ウェストパック銀行の2006年度の連結財務書類および2006年9月30日現在の財務報告に関する内部統制についての統合監査ならびに2005年度の連結財務書類についての監査を完了した。監査に基づく私どもの意見は以下の通りである。

連結財務書類

私どもの意見によれば、添付の連結貸借対照表、関連する連結損益計算書、連結認識利得・損失計算書および連結キャッシュ・フロー計算書は、ウェストパック銀行およびその子会社の2006年および2005年9月30日現在の財政状態ならびに2006年9月30日に終了した2年間の各事業年度の経営成績およびキャッシュ・フローについて、国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準（以下「A-IFRS」という。）に準拠して、すべての重要な点に関して公正な概観を与えている。当該財務書類は、ウェストパック銀行の経営陣の責任であり、私どもの責任は、私どもの監査に基づいて、当該財務書類に対する意見を表明することである。私どもは、公開企業会計監視委員会（米国）の基準に準拠して、当該財務書類の監査を実施した。これらの基準では、財務書類に重要な虚偽表示がないことについて合理的な確証を得るために私どもが監査を計画し実施するよう求めている。当該財務書類の監査には、財務書類の金額および開示を裏付ける証拠の試査による検証、適用されている会計方針および経営陣による重要な見積りの評価、財務書類の全体的表示の評価が含まれる。私どもは、私どもの監査が、私どもの意見に関して合理的な基礎を提供するものと考えている。

A-IFRSは、いくつかの重要な点に関して、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則とは異なる。こうした相違の性質および影響に関する情報は、連結財務書類の注記49に記載されている。注記49(vi)で説明されているように、ウェストパック銀行はFAS第123号(R)「株式報酬(2004年改訂)」を2005年10月1日から適用している。

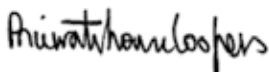
連結財務書類に対する注記1「重要な会計方針」で説明されているように、ウェストパック銀行は、AASB第1号「国際財務報告基準に相当するオーストラリアの会計基準の初度適用」で規定される移行規定に従った移行日である、2004年10月1日からA-IFRSを適用している。それまでウェストパック銀行はオーストラリアにおいて一般に公正妥当と認められた会計原則（以下「AGAAP」という。）に準拠していた。A-IFRSへの移行についての詳細な説明は、連結財務書類に対する注記48を参照のこと。

財務報告に関する内部統制

また、私どもの意見では、添付の経営陣の報告書に記載されているトレッドウェイ委員会組織委員会（以下「COSO」という。）が公表した「内部統制—統合的枠組み」で規定される基準に基づいて2006年9月30日現在ウェストパック銀行は財務報告に関する有効な内部統制を維持しているという経営陣の評価が、当該基準に基づき、全ての重要な点において適正に記載されている。さらに、私どもの意見では、COSOが公表した「内部統制—統合的枠組み」で規定された基準に基づいて、全ての重要な点において、2006年9月30日現在ウェストパック銀行は財務報告に関する有効な内部統制を維持している。ウェストパック銀行の経営陣は、財務報告に関する有効な内部統制を維持し、財務報告に関する内部統制の有効性について評価する責任がある。私どもの責任は、私どもの監査に基づいて経営陣の評価およびウェストパック銀行の財務報告に関する内部統制の有効性に対し意見を表明することである。私どもは、公開企業会計監視委員会（米国）の基準に準拠して、財務報告に関する内部統制の監査を実施した。これらの基準は、財務報告に関する有効な内部統制が、全ての重要な点において維持されていたかどうかについて合理的な保証を得るために、私どもが監査を計画し、実施することを要求している。財務報告に関する内部統制の監査は、財務報告に関する内部統制についての理解、経営陣の評価についての評価、内部統制の整備とその運用状況の有効性の検証および評価、ならびに状況に応じて私どもが必要と考えるその他の手続の実施を含んでいる。私どもは、実施した監査が、私どもの意見表明のための合理的な基礎を提供しているものと判断している。

会社の財務報告に関する内部統制は、財務報告の信頼性および一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠した外部報告目的の財務書類の作成について合理的な保証を提供するよう整備された手続である。会社の財務報告に関する内部統制は、以下についての方針および手続を含んでいる。(i) 会社の取引および資産の処分を合理的に詳細、正確かつ公正に反映する記録の維持に関係するもの、(ii) 一般に公正妥当と認められた会計原則に準拠した財務書類を作成するために必要な取引が記録されていることについて、また会社の収入および支出は会社の経営陣および取締役の承認に基づいてのみ発生していることについて、合理的な保証を提供するもの、ならびに(iii) 財務書類に重要な影響を及ぼす可能性のある会社の資産の未承認の取得、利用または処分の防止または適時発見に関して合理的な保証を提供するもの。

会社固有の制限により、財務報告に関する内部統制は、虚偽記載を防止または発見しない可能性がある。また将来における有効性の評価の予測には、状況の変化によって統制が不適切になる、方針または手続への準拠性が低下する可能性があるというリスクを前提としている。



ブライスウォーターハウスクーパーズ

シドニー、オーストラリア
2006年11月2日

日本語訳注：年次財務報告書原文に掲載されている添付の注記は、この日本語版年次報告書要約では翻訳を省略している。添付の注記を含む詳細については、ウェストパック銀行の2006年度年次財務報告書を参照のこと。当該年次財務報告書は www.westpac.com.au/investorcentre で見ることができる。

Australia Head Office

275 Kent Street
Sydney NSW 2000
Telephone: (61 2) 9293 9270
Facsimile: (61 2) 8253 4128

*この日本語版年次報告書は英語版の抄訳です。英語原版をご希望の方は下記にご請求下さい。
三菱UFJ信託銀行 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 TEL.0120-707-696 (フリーダイヤル)

また当行のインターネットホームページで完全な財務報告にアクセスすることも可能です。

URL アドレスは
www.westpac.com.au